
空を見上げて

菱田右京

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

空を見上げて

【Nコード】

N3858A

【作者名】

菱田右京

【あらすじ】

高校一年生の冬、いつも通りに家から少し遠い市立図書館にやってきた浅川好美は、同じクラスの米村修司と出会い、意外な面を知り、ひかれていく。お互い、夢に向かって勉強する中で人を好きになる喜びを学んでいく。

図書館での出会い（前書き）

このお話は恋愛を中心とした初々しい初恋のような純愛を描いています。ぎこちないけどどこかで暖かさを感じるという作品に仕上がっているかと思います。普段おとなしい女の子の好美と、運動神経抜群で輝いている男の子の修司の感動恋愛物語。

図書館での出会い

冷たい風に身を震わせ、ポケットに突っ込んでいる手を寒さに負けないようギュツと握った。

トナカイの様に鼻を赤くしながらかじかむ足を一步一步すすめ、冷たい風に髪を吹雪かせる。

この日、浅川好美は一週間前に借りた本を返すために電車に揺られ、市立図書館に来ていた。家からは結構遠くに位置していて不便だが、好美にとっては違う世界のような違和感がとても気に入っているのだった。知ってる者もないので快くして読書できる。早速、童話の新刊を手にとると、満足気にしてカウンターへと足を運んだ。

『すみません。これを借りたいのですが。』

着々と仕事をこなすカウンターの人を見て感心しているところに好美の隣に男性が来る。「お願いします。」

そういつて男が出した本は“ウサギの庭”という、パンダ号シリーズの童話だった。

『（あ。私が読もうとしてた本だ。）』

そう思い、その男性をちら見すると背の高い好美と同じくらいの少しくールだけど今時の男の子が着るストリート系ではなく、少しだ

け大きいが下につくほどではないジーンパンに、彼にサイズがちょうどよい赤いチェックの上着に、黒いフード付きのコートを羽織っている。

『（どっかで見たことあるような……？）』

そして

「どうぞ」

と好美は同じパンダ号シリーズの“魔法使いの森”を受け取って帰ろうとすると突然腕を掴まれ後ろに躓いてしまう。おそろおそろ後ろを見てみると、さっき隣にいた男の子だった。

『（あ……！！思い出した！！同じクラスの米村修司！！！！）』

好美は思い出した途端、目をかっと見開き、修司を見上げた。目が合い、手を引かれたと思うと修司の声が耳元で聞こえる。

「今時、魔法使いでもないよな（笑）」

『なっ……！！！！』

そう言い残すと好美の腕を離し、去っていった。

『（魔法使いはダメで、ウサギはいいの！？）』

好美の思いは虚しく図書館の静寂に押し潰されたのだった。

図書館での出会い（後書き）

これは私が憧れを抱いた恋をそのまま書いています。近いのに一歩を踏み出せない切なさ、日に日にこの胸が苦しくなるほど愛しい存在、そんな思いをしながら書きました。感動してくれたらうれしいです。

登校風景

好美はえらく不機嫌だった。

《今時、魔法使いでもねえよな。》

図書館で同じパンダ号シリーズ“ウサギの庭”を借りていた同じクラスの米村修司にいわれた言葉に腹が立ち、『ウサギは良くて魔法使いはいいのかよ!』言い返そうとしたが図書館の静寂な雰囲気負け、唇を噛み締め、手をギュツと握るしかできなかった。突如芽生えた苛立ちで本をろくに読めないだろうと思った好美は、足早に図書館をあとにした。

『（米村修司って…、不思議な人ね。）』

帰りの電車に揺られながらそう思っていた。米村修司は好美と同じ向陵高校の特進クラス。そこそこ頭も良く、真面目と先生に評判の生徒。運動神経も抜群らしく、昼休みなんかは友達とサッカーしてたりする。そして今日の出来事でわかった童話好きということ。なんてギャップのすごい人なんだろうと好美は思った。

登校日。

「おっはよっ!!好美!」

『おはよう、信ちゃん!』

好美に肩を叩いて挨拶してきたのは高校生になって仲良くなった伊藤信子。通称、信ちゃん。同じ特進クラスで英語が得意な女の子。168センチという長身でスタイル抜群。

『今日の数学の宿題やった?』

「あ!!やばい!!どうしよう、好美!!」

『数学は五時間目だし、見せてあげてもいいよ。』

「ありがとう!!助かるよぉ!!」

そんな会話をしながら高校の門に入り、教室へ向かっていった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3858a/>

空を見上げて

2010年10月28日04時40分発行